

## 小学校 国語科 部会

部会長名 上野小学校 校長 渡邊 伴子

実践者名 糸田小学校 教諭 國本 裕司

### 1 研究主題

中心を明確にして書くことができる子どもを育てる第3学年国語科学習指導

### 2 主題設定の理由

#### (1) 児童の実態から

本学級の児童は、普段から日記を書いている、書くことには慣れている。しかし、これまでに児童の書いた説明文を見ると、一番伝えたいことが書かれてある段落が明確に位置づいていなかったり、一つの段落の中に、伝えたいことと関係のない内容が書かれていたり、事例を挙げて説明する事ができていなかったりして、中心を明確にして書くことができていなかった。

#### (2) 社会的要請から

現代では、21世紀型学力として基礎力、思考力、実践力がもともとめられてきて、自分で考えたり、自分で答えを作り出したりしていくことが重要になってきている。

また、国際化が進み、今まで以上に自分の意志を明確に主張していくことができるようなコミュニケーション能力が必要になってきている。そして、情報化の中で、自分の伝えたいことを分かりやすく伝える力の育成も必要になってきている。このような社会では、中心を明確にして表現する力の育成が急務であるといえる。

### 3 主題の意味

「中心を明確にして書く」とは

段落相互の関係から見て、一番伝えたいことを書いた段落を明確に位置づけたり、一つの段落の中に中心となる事を明確に書いたり、その中心となる事を分かりやすく説明するために事例を挙げて説明したりすることとらえる。(資料1)

### 4 研究の目標

第3学年国語科「書くこと」の学習において、子どもが、中心を明確にして書くことができるように、単元設定やモデルとサンプルの比較活動、交流活動の設定を工夫した学習指導の在り方を究明する。

|  |   |
|--|---|
| ろう下を歩いて、安全な学校にしよう  |   |
| この記号は、ろう下は歩こうという記号です。この記号は、色は青、形は丸くして、絵は大きく真ん中に歩いている人の絵をかいています。  |   |
| 記号を青い色、丸い形にしたのは、「～しよう」という指示を表すためです。また、絵を大きく真ん中にかいたのは、一目で分かるようにするためです。  |   |
| なぜ、この記号を作ったのかというと、糸田小学校には、ろう下を走る人がたくさんいてあぶないからです。たとえば、いつも休み時間になると、教室前のろう下を走ってケガをする人を見ます。そうし時間にも、ろう下を走ってケガをしているのを見たことがあります。ぼくの目の前にろう下を走る人がいて、ぶつかりかけたこともありました。 |   |
| ぼくは、このろう下を走る人を絶対になくしたいです。そして、大好きな糸田小学校を、ケガをする人がいない、安全でよりよい学校に変えていきたいと思います。だから、ろう下は歩こうという記号を作りました。  | 糸田小学校の生活の様子を書いた段落に、問題点を明確に記述                |
| 記号にこめた思いを書いた段落を明確に位置づけている  | 問題点を分かりやすく説明するために、たとえばという言葉を使い、事例を挙げて説明している |

(資料1)

## 5 研究仮説

### (1) 本実践の研究仮説

第3学年国語科の「書くこと」の学習において、書くことの必要性和価値を見出す単元設定の工夫や、中心を明確にして書くために必要なことを見出し、表現するための支援、問題点や改善点を見出す交流活動の設定を行えば、中心を明確にして書くことができる子どもを育てることができるであろう。

### (2) 仮説の着眼と具体的手立て

#### ①【着眼1】書くことの必要性和価値を見出す単元設定の工夫

ア 子どもの経験とつないだブックトークや、学級文庫に「記号コーナー」を設置することによる意欲づけ

イ 生活アンケートの結果を元にした単元設定

#### ②【着眼2】中心を明確にして書くために必要なことを見出し表現するための支援

ア 一番伝えたいことを書いた段落の位置づけと、段落の中に中心となる事を明確に書くことを見出すためのモデルとサンプルの比較活動

イ 中心となる事を分かりやすく説明するために事例を挙げて説明することを見出すためのモデルとサンプルの比較活動

#### ③【着眼3】観点に沿った問題点や改善点を見出す交流活動の設定

ア 少人数グループでの相互推敲活動の設定

イ 付箋を使った推敲活動

## 6 研究の計画

### (1) 単元 「記号と文章で伝えよう～糸田小学校のよりよいくらしづくりにむけて～」

### (2) 単元の目標及び指導計画

| 単元    | 記号と文章で伝えよう～糸田小学校のよりよいくらしづくりにむけて～   | 総時数                    | 13時間                                    | 時期                                      | 7月 |
|-------|--|------------------------|---|---|----|
| 単元の目標 | ○ 糸田小学校をよりよくするために、記号の文章を進んで書こうとしている。<br>(国語への関心・意欲・態度)<br>○ 糸田小学校をよりよくしたいという思いがはっきり伝わるために、必要な事例を挙げて記述することができる。<br>(書く能力)<br>○ 書いた文章を読み合い、内容と表現方法の両面から感想や意見を交流することができる。<br>(書く能力)<br>○ 句読点を適切に打ったり、段落の初めは行を改めたりして書くことができる。<br>(言語についての知識・理解・技能) |                        |   |   |    |
| 次     | 時  | 具体的な目標                 | 学習活動・内容                                 | 指導上の留意点                                 |    |
| 0     |  | 記号について、興味・関心をもつことができる。 | 記号について、ブックトークし、関連図書を設置する。<br>糸田小学校の課題につ | スムーズに、記号の本のブックトークをすることができるよう、「自転車教室」での学 |    |

|   |               |   |   |  |
|---|---------------|---|---|--|
|   |               |   | いてアンケートをとる。                               | 習を想起する。  |
| 1 | 1             | オリジナルの記号と、記号の事を伝える文章を考えて、表現したいという意欲をもつことができる。                       | 糸田小学校の問題点について話し合い、単元設定をする。                | 書くことの必要性と価値を見出すことができるよう、生活アンケートを元に話し合う。                  |
|   | 2             | 記号は、色や形、絵、文字に工夫があることに気づくことができる。                                     | 身の周りの記号の工夫について話し合う。                       | 同じ仲間の記号同士観点別にまとめて板書するようにする。                              |
|   | 3             | 糸田小学校をよりよくする記号と文章を作るための学習の進め方を、意欲的に考えることができる。                       | 学習の計画を立てる。                                | できるだけ子どもの言葉で計画を立てるようにする。                                 |
|   | 4             | 糸田小学校をよりよくしたいという思いをもって、オリジナル記号と一次作文を作ることができる。                       | オリジナル記号と文章の一次作文を作る。                       | 糸田小学校の問題点をふり返り、一番解決したいものを題材に選ぶようにする。                     |
|   | 5             | 表記面だけでなく、構成面や記述面からも問題点や改善点を見つけることができる。                              | かいたオリジナル記号と文章の一次作文を交流して、問題点や改善点を話し合う。     | 三人組のグループを作ったり、観点別に付箋を4色に色分けしたりして相互推敲する。                  |
| 2 | 6<br>~<br>8   | 糸田小学校をよりよくするために必要であるかどうかや、思いが伝わるかどうかという観点で、材料集めをしたり、選材をしたりすることができる。 | 付箋を使い、糸田小学校をよくしたいという思いが伝わる材料を集めたり、選んだりする。 | 書く抵抗感を減らすため、付箋に短く、書く材料を集める。<br>事柄の偏りを防ぐため、事柄ごとに付箋の色を変える。 |
|   | 9             | 「記号を作った理由」「自分の記号の説明」「糸田小のみんなへのメッセージ」を並び替える事ができる。                    | 思いが伝わる構成を考える。                             | 糸田小をよくしたい思いが伝わるのは、どの順番かという観点で並び替える。                      |
|   | 10<br>~<br>11 | 中心を明確にして書くために必要なことを見出し、表現に生かすことができる。                                | モデルとサンプルの比較をする。<br>見出したことを元に記述する。         | 比較の際には、焦点化した比較をすることで、比較する観点を明確にする。                       |

|   |    |                                     |                                 |                                       |
|---|----|-------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------|
|   | 12 | 中心が明確になった記述になっているかを相互推敲することができる。    | 下書きを相互推敲し、文章を仕上げる。              | 三人組のグループを作り、相互推敲する。                   |
| 3 | 13 | 友達の文章の内容と表現方法両面から、感想や意見を交流することができる。 | できた文章を読み合っ<br>て、感想や意見を伝<br>え合う。 | 「記号について」「説<br>明の仕方」という視点<br>を与えて交流する。 |

## 7 指導の実際

### (1) 「単元前」の段階

この段階では、記号に興味・関心をもたせるために、一学期の中頃に行われた「自転車教室」での記号の学習を想起させ、その後、記号について書かれてある本をブックトークで紹介した。子どもの経験とつなぐことで、スムーズにブックトークに入ることができた。

また、記号の本についてブックトークした後は、学級文庫に記号コーナーを設置した。子ども達は、休み時間や隙間の時間を使って意欲的に記号の本を読む姿が見られた。子ども達からは、「いろんな記号があるんだ。」「止まれの記号は見たことがある。」「僕も止まれの記号を探そう。」といった、記号に対する興味・関心をもったつぶやきがあった。(資料2)



(資料2)

### (2) 「つかむ」段階

つかむ段階では、書くことの必要性和価値を見出すことができるように、糸田小学校の問題点という実生活に基づいた課題から単元設定を行った。

まず、つかむ段階の1時間目には、授業の導入で「糸田小学校は好きですか。」と問うと、全員が挙手した。全員が糸田小学校を好きであるということを確認した後、糸田小学校には良いところもたくさんあるが、問題点もたくさんあるという生活アンケートの結果から、「糸田小学校は、このままでいいの。」と問うた。子ども達からは「問題点を無くして、糸田小学校をよりよい学校にしたい。」という答えが返ってきた。

そこで、「どうしたら、糸田小学校の問題点は無くなるのかな。」と切り返した。

すると、「自転車教室の記号は、一目ではいけないことが伝わってたよ。」「記号を学校にはったらどうか。」「でも、急に記号だけあっても、何のことか分からないよ。」「記号の事を伝える文章が絶対に必要だよ。」「記号と文章は、糸田小学校をきっとよい学校にしていきます。」

(資料3)

と発言をつなげていき、

書くことの必要性和価値を見出すことができた。(資料3)

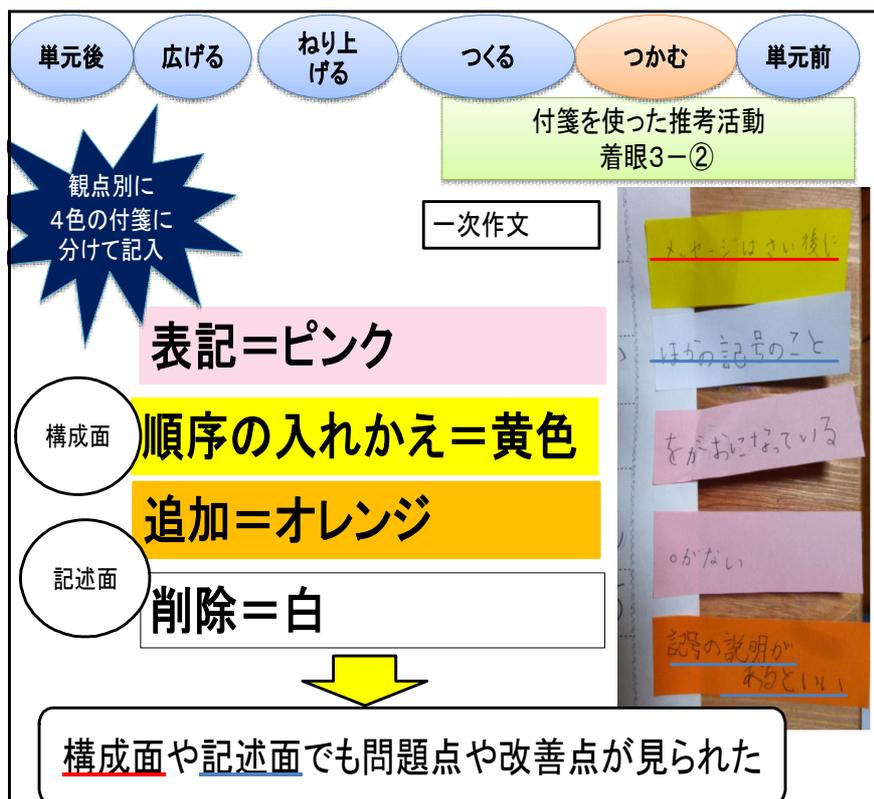
つかむ段階の4時間目には、一次作文を書いた。まず、一次作文で書くことを決めるために、糸田小学校の問題点をふり返り、出し合った。子ども達は、その中で、自分が一番解決したいと思うことを題材に選んだ。題材が決まると、一次作文を作った。子どもたちの一次作文をみると、糸田小学校の生活の様子を述べた段落に、糸田小学校の良い所と問題点両方の記述があったり、その問題点を分かりやすく説明することができていなかったり、記号にこめた思いを書いた段落が明確に位置づいていなかったりして、中心が明確ではなかった。(資料4)

そこで、一次作文の問題点や改善点に気づくことができるように、少人数グループでの相互推敲活動を設定した。人数は、2人組だと十分に深まらないことや、4～5人組だと時間がかかりすぎることで、3年生という発達段階から、3人組での活動を設定した。

(資料4)

相互推敲する際には、4色の付箋を使った。問題点や改善点を見つける際には、表記、順序の入れ替え、追加、削除という観点を決め、表記はピンク、順序の入れ

替えは黄色、追加した方がいいものはオレンジ、削除した方がいいものは白の付箋に記入し貼っていった。すると、観点を決めて相互推敲したことにより、表記面だけでなく、構成面や記述面でも問題点や改善点が見られた。(資料5)



(3) 「つくる」段階  
つくる段階の1時間目には、一次作文の問題点や改善点を元に、再集

(資料5)

材をしていった。多くの情報を集めるために、付箋を使って材料を集めていった。その際には、事柄ごとに付箋の色を変えた。付箋に短く書くことで、書く抵抗感も少なく、たくさんの材料を集めることができた。また、事柄ごとに付箋の色を変えることで、事柄の偏りにも気づくことができた。

つくる段階の2時間目には、子ども達が再集材で集めていたものを中心にして選んだ6つの事柄の中から、糸田小学校をより良くしたいという思いを伝えるために必要である事柄を選材した。

「自分の記号の説明」「糸田小のみんなへのメッセージ」「自分の好きな記号」「記号を作った理由」「友達の記号の説明」「3年3組の友達へのメッセージ」という6つの事柄の中から、糸田小学校をよくしたいという思いを伝えるためには、どれが必要かという観点を与えることで、「記号を作った理由」「自分の記号の説明」「糸田小のみんなへのメッセージ」が必要であると結論づけることができた。

(4) 「ねり上げる」段階

ねり上げる段階では、まず、構成をした。その後、記述するのだが、子ども達から「記号を作った理由を、どう書けばいいのかわからない。」というつぶやきがあった。そこで、「自分の記号の説明」「記号を作った理由」「糸田小のみんなへのメッセージ」という3つの事柄の中の、「記号を作った理由」に絞り、モデルとサンプルを比較した。(資料6)

モデル文(Aの文章)とサンプル文(Bの文章)を提示して、「Aの文章は、Bの文章と比べてどこがいいのかな。」と問うと、子ども達は、Aの文章は、記号にこめ

た思いを書いた段落を明確に位置づけていて、その理由である糸田小学校の問題点を、糸田小学校の生活の様子を書いた段落に明確に記述していることを見出すことができた。子ども達からは、「Aの文章の方がはっきり分かる。思いが伝わる。」という発言があった。

しかし、まだ事例を挙げて説明することを見出すことができていなかった。そこで、モデル文（Cの文章）とサンプル文（Dの文章）の比較活動を行った。

（資料7）焦点化した比較にするために、「記号を作った理由」の中の、「生活の様子」に絞って比較した。「Cの文章は、Dの文章と比べてどこがいいのかな。」と問うと、子ども達は、問題点を分かりやすく説明するために、「例えば」という言葉を使い、事例を挙げて説明していることを見出すことができた。子ども達からは、「例えがあると分かりやすいです。」という発言があった。

ねり上げる段階の3時間目には、モデルとサンプルを比較し見出したことをふまえて記述を行った。子ども達の作品は、文章をはじめ（自分の記号の説明）、中（記号を作った理由）、終わり（糸田小のみんなへのメッセージ）と分けると、中の記号を作った理由に、

記号にこめた思いを書いた段落を明確に位置づけていた。また、その理由となる糸田小学校の問題点を、糸田小学校の生活の様子を書いた段落に、明確に記述していた。そして、問題点を分かりやすく説明するために「例えば」という言葉を使い、事例を挙げて説明していた。この三点の記述があり、中心が明確になっていた。

|   |     |       |   |     |     |
|---|-----|-------|---|-----|-----|
| 単元後   | 広げる | ねり上げる | つくる   | つかむ | 単元前 |
| 記述  |     |       |   |     |     |
| <p><b>Aの文章</b><br/>         なぜこの記号を作ったのかというと、糸田小学校には、言葉づかいが悪い人がたくさんいるからです。<br/> <u>僕は、この言葉づかいが悪い人達を、絶対になくしたいです。そして、大好きな糸田小学校を、美しい言葉づかいで、笑顔があふれる、より楽しい学校に変えていきたいと思えます。だから、言葉づかいに注意という記号を作りました。</u></p> |     |       | <p><b>Bの文章</b><br/>         なぜこの記号を作ったのかというと、糸田小学校には、ていねいな言葉づかいの人もいるけど、言葉づかいが悪い人もいるからです。この言葉使いを直したいから言葉づかいに注意という記号を作りました。</p> |     |     |
|   |     |       | <p>糸田小学校の生活の様子を書いた段落に、問題点を明確に記述</p>   |     |     |
|   |     |       | <p>記号にこめた思いを書いた段落を明確に位置づけている</p>  |     |     |

（資料6）

|   |     |       |   |     |     |
|---|-----|-------|---|-----|-----|
| 単元後   | 広げる | ねり上げる | つくる   | つかむ | 単元前 |
| 記述  |     |       |   |     |     |
| <p><b>Cの文章</b><br/>         なぜこの記号を作ったのかというと、糸田小学校には、言葉づかいが悪い人がたくさんいるからです。<u>たとえば、「さん、くん」をつけずに、よびすてでよんでいるのを聞いたことがあります。先生にけい語を使わない人を見たことがあります。「うるさい」とか、らんぼうな言葉づかいをしているのを見たことがあります。</u></p> |     |       | <p><b>Dの文章</b><br/>         なぜこの記号を作ったのかというと、糸田小学校には、言葉づかいが悪い人がたくさんいるからです。言葉使いが悪い人は、よびすてで「～さん」とか「～くん」とは言わずによびます。先生には、敬語を使うのが大事です。なぜかという、先生が嫌な気持ちになるからです。だから、先生には敬語を使わないといけません。後、「うるさい」とか、乱暴な言葉もあります。乱暴な言葉使いには気をつけなさいといけません。</p> |     |     |
|   |     |       | <p>問題点を分かりやすく説明するために、たとえばという言葉を使い、事例を挙げて説明している</p>  |     |     |

（資料7）

## (5) 広げる段階

広げる段階では、まず、「記号について」と「説明の仕方について」という視点を与えて交流を行った。視点を与えて交流することで、内容だけでなく、表現方法からも感想を交流することができた。

単元後には、完成した文章を廊下に掲示し、全校児童に見てもらえるよう、校内放送で呼びかけた。翌日には、記号を掲示した。その後、隣のクラスからお手紙もらった。「どうしてもケンカをなくしたいという思いが強く伝わってきました。」と、伝えたいことの中心が伝わった記述が見られた。手紙を読んだ子ども達は、達成感を味わった様子であった。

## 8 研究のまとめ

子ども達の完成した作文を分析すると、糸田小学校の生活の様子を書いた段落に問題点だけを明確に記述し、問題点を分かりやすく説明するために「例えば」という言葉を使い事例を挙げて説明し、記号にこめた思いを書いた段落を明確に

図書室ではしずかに、集中しよう

この記号は、図書室ではしずかにという記号です。この記号は、色は青、形は丸くして、絵は大きく真ん中に本を読んでいる人の絵をかき、短く「しずかに」という言葉を書いています。

記号を青い色、丸い形にしたのは、「～しよう」という指示を表すためです。また、絵を大きく真ん中にかき、言葉を短く書いたのは、一目で分かるようにするためです。

なぜ、この記号を作ったのかというと、糸田小学校には、図書室で話をしている人がいるからです。たとえば、本を選ぶ時に、友達と話しながら選んでいる人を見ます。本を読む時、友達と話しながら、本を読んでいる人も見ます。中には、本をもっていないで、お友だちと話をしているだけの人もいました。

私は、この図書室でおしゃべりをする人を絶対になくしたいです。そして、糸田小学校を、図書室では静かに集中して本を読むことができる、ルールを守れるよりよい学校に変えていきたいと思ひます。だから、図書室ではしずかにという記号を作りました。

みなさん、この記号を見たら、静かにしましょう。そして、力を合わせて、図書室で本を読むことがにしていきたいでしょう。

|      |   |        |
|------|---|--------|
| 22%  | ➔ | 81%    |
| 一次作文 |   | ゴールの作文 |

(資料 8)

位置づけている。つまり、中心を明確にして書くことができた子どもは、一次作文の段階の全体の 22% から、81% に増えた。(資料 8)

## 9 成果と今後の課題

着眼 1 書くことの必要性和価値を見出す単元設定の工夫

○子どもの経験とつなぐことで、スムーズに「記号に関する本」のブックトークをすることができた。

○糸田小学校の問題点という、子ども達にとって切実感のある課題から単元設定を行った事により、記号と文章は、糸田小学校をきっとよりよい学校にするだろうという価値を見出すことができた。

●記号コーナーの本は、もっと種類も冊数も充実が必要だった。

●記号と文章の両方があり、子ども達にとって、記号の必要性は十分であったが、文章の必要性は足りなかった。

着眼2 中心を明確にして書くために必要な事を見出し、表現するための支援

○モデル文とサンプル文を比較することで、中心を明確にして書くために必要な事を見出すことができた。

○焦点化した比較をすることで、比較する観点を明確にすることができた。

●サンプル文が、実際に子ども達もっている課題になるように、モデル文はその課題を解決するものとなるように、さらなる吟味が必要であった。

●今回は、記述の場面に重点を置いて研究してきたが、選材から構成の場面でも中心を意識させる必要があった。

着眼3 観点に沿った問題点や改善点を見出す交流活動の設定

○相互推敲活動を設定することで、自分では見えなかった構成面や記述面からの問題点に気づくことができた。

○観点ごとに付箋の色分けをして推敲することで、問題点や改善点が明確になった。

●推敲する際の観点を、記述面だけに焦点化した方が良かったと考える。

#### ◎ 参考文献

○文部科学省「小学校学習指導要領解説 国語編」，東洋出版社，2008年

○田近洵一・井上尚美編「国語教育指導用語辞典」，教育出版，2004年

○横浜市小学校国語教育研究会 著

『「書くこと」の授業プラン&ワークシート』，明治図書，2014年